



(1) 緑友ハーモニー25年度運営体制

幹事長: 小林 力 (5回生)

幹事楽譜係: 岡真理子 (14回生)

幹事会計係: 清水あつ子 (14回生)

パートリーダー: 青木 緑 (ソプラノ)、佐藤睦子 (アルト)
河野通久 (テナー)、上田昌紀 (バス)

(2) 今後の練習日程

1月10日 (金)	10:00 ~ 12:00	緑ヶ丘文化会館・第11研音楽室 (別館2階)
1月24日 (金)	13:00 ~ 15:00	緑ヶ丘文化会館・第11研音楽室 (別館2階)
2月14日 (金)	10:00 ~ 12:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
2月28日 (金)	10:00 ~ 12:00	緑ヶ丘文化会館・第11研音楽室 (別館2階)
3月14日 (金)	10:00 ~ 12:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
3月28日 (金)	13:00 ~ 15:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール

4月11日 (金)	10:00 ～ 12:00	緑ヶ丘文化会館・第11研音楽室 (別館2階)
4月25日 (金)	13:00 ～ 15:00	緑ヶ丘文化会館・第11研音楽室 (別館2階)
4月27日 (日)	12:45 ～ 16:30	附中同窓会創立75周年記念式典 於 附中体育館
5月9日 (金)	13:00 ～ 15:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
5月23日 (金)	10:00 ～ 12:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
6月13日 (金)	13:00 ～ 15:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
6月27日 (金)	10:00 ～ 12:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
7月11日 (金)	13:00 ～ 15:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
7月25日 (金)	10:00 ～ 12:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
8月8日 (金)	お盆休み	
8月22日 (金)	10:00 ～ 12:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
9月12日 (金)	13:00 ～ 15:00	緑ヶ丘文化会館・第11研音楽室 (別館2階)
9月26日 (金)	10:00 ～ 12:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
10月10日 (金)	13:00 ～ 15:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
10月17日 (金)	13:00 ～ 15:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
10月24日 (金)	10:00 ～ 12:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
10月24日 (金)	12:30 ～ 15:00	懇親会 於 祐天寺 イタリアン レストラン Real
10月31日 (金)	12:30 ～ 15:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
11月21日 (金)	13:00 ～ 15:00	中央町社会教育館・レクリエーションホール
11月28日 (金)	13:00 ～ 16:00	ミニコンサート 小山台会館 3F大ホール
12月12日 (金)	11:30 ～ 15:00	クリスマス会 田園調布倶楽部

註1: 8月22日は高島先生の代わりに彩美歌の木下泰子先生になりました。

註2: 11月の練習日が14日から21日に変わりました。ご注意ください。

註3: 10月は10日から毎週練習があります。

(3) 懇親会

合宿の楽しみのひとつに懇親会がありますが、合宿が中止になりそれが叶わなくなりました。代替として10月24日午前中のさくらプラザでの練習後に祐天寺で懇親会を開くことになりました。会場は祐天寺駅から歩いて1、2分

のところにある Real という小ぢんまりとしたイタリアン レストランです。
開始時間は練習後バスで行きますので、12時半くらいになると思います。

ここは女性の方達のランチの定番となっており、スパゲッティの美味しいお店です。お店を貸切で使います。会費は1人 ¥5,000くらいになると思います。

(4) ミニコンサート

ミニコンサートを開催することが総会で決まりました。日時は11月28日(金)の午後です。会場は小山台会館3階の大ホールです。詳細なタイムラインはプログラムなど決まり次第ご案内します。

小山台会館は目黒線武蔵小山駅から徒歩3分と便利な場所にあります。行き方は、自由が丘より渋谷寄りの方は学芸大学から出る五反田行バス(反11)を利用すれば15分ほどで着きます。自由が丘より田園調布寄りの方は田園調布から目黒線を利用されるのが便利だと思います。

小山台会館の URL は <https://www.koyamadai.or.jp/> です。

ミニコンサートに向けて練習量を増やすため、10月は10日から毎週練習となります。

(4) 9月号のひまつぶし

1年ぶりのARKクラシックス

小林 力

ピアノの辻井伸行とヴァイオリンと指揮の三浦文彰がアーティスティック・リーダーを務めるARKクラシックス音楽祭の一環で、今回は8月1日にオペラシティー・ミュージックホールで開催された。三浦文彰は言わずと知れた我々が誇る緑友の後輩(59回生)で、過去に何回かひまつぶしに書いた。

ARK クラシックスのレジデント・オーケストラは辻井伸行と三浦文彰の呼びかけで、ソリストとしても活躍する実力派の演奏家や国内外のコンクールで優勝を飾った若手奏者を中心に2019年に ARK シンフォニエッタとして発足した。その後構成の拡大に伴い2024年より名称を ARK フィルハーモニックに変更し、アーティスティック・ディレクターに三浦文彰が、レジデント・ピアニストに辻井伸行が就任、日本最高峰のオーケストラのひとつと称賛されるに至った。

演奏会の曲目は、前半がモーツァルトのフルートとハープのための協奏曲ハ長調 K.299 とチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番 変ロ短調 Op.23、後半がブラームスの交響曲第1番 ハ短調 Op.68。フルートは 高木綾子、ハープは日本の第一人者 吉野直子、ピアノはもちろん 辻井伸行。今回は三浦文彰は指揮に専念する。

1778年、パリを訪れていた22歳のモーツァルトは父への手紙で公爵と記(しる)したこの有力な貴族ド・ギーヌ伯爵と知り合った。伯爵はフルートを巧みに吹くアマチュア音楽家で、ハープを弾く娘と共演するために、フルートとハープのための協奏曲の作曲をモーツァルトに依頼した。モーツァルトはあまり乗り気ではなかったと言われているが、どうしてどうして仕上がった作品は2つの楽器のきらびやかな特性を生かした傑作となった。

聴き慣れた曲だが、私は生で聴くのははじめてだ。前から6列目のかぶりつきで堪能した。サロン風の明るい曲だが、そこはモーツァルト、随所に哀愁を帯びたメロディーを入れることを忘れない。ただ悲しいかなハープの音量がオーケストラやフルートにかき消されてしまいがちである。これはハープという楽器の構造からきている。普通弦楽器は弦が共鳴器と並行になっている。しかしハープで弦が共鳴器に直角になっており、音が共鳴器に入りにくいのだ。名手吉野直子をしてこればかりは如何ともしがたい。

さて、辻井伸行のチャイコフスキーは圧巻だった。この曲は発表当初ニコライ・ルービンシュタインに酷評され演奏不可能と断じてられて、初演を拒否されたほどの難曲である。後にルービンシュタインもこの曲を再評価し、結果的にこの曲は彼に献呈されている。

まず第1楽章冒頭のホルンによるフォルティッシモの高らかな序奏は美しい



が、何度聴いても度肝を抜かれる。続いてピアノの序奏主題が続く。8本の指を使って縦横に奏でられる序奏主題はこの協奏曲では二度と再現されず、協奏曲全体で得意な位置を占めている。しかし、一度聴いたら忘れられないこの協奏曲のいわば名刺がわりともいえる存在だ。第1楽章はその後3つの主題で構成され、ウクライナ民謡に基づくといわれる第1主題、クラリネットが導入する第2主題、そして第3主題から

はじまる展開部へと進み、カデンツァに入る。カデンツァが終わると短い



コードに入って雄大に第1楽章の幕が閉

じられる。第2楽章は、弦楽器のピツ
ツィカートの伴奏に乗せてフルートが
主題を奏でピアノが続く哀愁に満ちた
美しい緩徐楽章である。第3楽章は、

いきなりティンパニーとオーケストラをバックにピアノが力強く主題を奏
で、続いて美しい第2主題へと続く。一貫してオーケストラとピアノのフォル
ティッシモによる共演で圧倒的な迫力で幕を閉じる。

辻井伸行の演奏には鳥肌が立つほど感動した。近年ますます円熟味を増
し、三浦文彰の棒とも息がぴったり合った実に見事な演奏だった。

さて、最後は私が最も好きなブラームスの交響曲第1番だ。もう何百回も聴
いたであろう馴染みの曲だが、音楽という芸術は実に不思議な力を持っている。
何度聴いてもその度に新たな感動を覚える。他の芸術ではそうはいかない
のではないかな。

三浦文彰の指揮がまた気に入った。この難曲を堂々と暗譜で振ったのであ
る。その振り方は、個々の楽器の入りの指示はしない、いわばカラヤン風の
指揮である。彼は、さすがに前の2つの協奏曲は譜面を前に置いていたが、
ほとんどそれを見ることなく指揮をしているのを見ると、いかに楽譜を深く
読み込んでいたかがわかる。三浦文彰はヴァイオリンはもちろん、指揮でも
超一流であることを証明した。ヘルベルト・フォン・カラヤンに続くレナード・
バーンスタイン、クラウディオ・アバド、小澤征爾、ダニエル・バレンボ
イム、グスターボ・ドゥダメル(現ロスアンジェルス・フィルの音楽監督で、
2026年からニューヨーク・フィルの音楽監督に就任することが決まっている
ベネズエラ出身でまだ44歳の天才)などの巨匠はみな暗譜派である。三浦文彰
にはその暗譜派の巨匠に加わってほしい。さらに、現代の指揮者で、楽器演
奏と指揮の二刀流(弾き振りを除く)をこなすのはパーキンソン病を患い事実
上引退したピアノと指揮のバレンボイムくらいである。三浦文彰にはヴァイ
オリンと指揮でバレンボイムの後継者にもなってもらいたい。